

第 388 回

日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会

《 プログラム・抄録 》

日 時：平成 30 年 12 月 8 日（土）午後 3 時 00 分
会 場：新潟グランドホテル 5 階 『 波光の間 』
新潟市中央区上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 389 回新潟地方会予告
日時：平成 31 年 3 月 9 日（土）午後 2 時
会場：未定
演題申込期限：平成 31 年 2 月 15 日（金）

- ※ すべての PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 富田 善彦

1. 経直腸的前立腺針生検後に遅発性の危機的動脈性直腸出血をきたした1例

新潟県立中央病院 泌尿器科¹⁾、同 救急科²⁾、消化器内科³⁾、放射線診断科⁴⁾
渡邊和博¹⁾、安藤嵩¹⁾、水澤隆樹¹⁾、曹聖鉉²⁾、有賀諭生³⁾、奥泉譲⁴⁾、片桐明善¹⁾

75歳男性。PSA 漸増傾向(生検前 13.1 ng/ml)であった為、脳梗塞既往でアスピリン内服中、ヘパリン置換の上で、経直腸的前立腺針生検(8ヶ所)を施行した。生検直後に中等度の出血を認めたが圧迫止血され、翌1病日にアスピリン内服再開し、退院した。退院後、下血を繰り返し、血圧低下と高度貧血が出現したため赤血球輸血を行いつつ大腸カメラによるクリッピングと動脈塞栓術で動脈性出血の止血を行なった。

2. インターフェロン α 、スニチニブ、アキシチニブ、ニボルマブ療法後に低用量アキシチニブによる再治療が奏功した転移性腎細胞癌の1例

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、放射線診断科²⁾、病理診断科³⁾、新潟大学大学院 歯学総合研究科 腎泌尿器科学分野⁴⁾
村田雅樹¹⁾、池田洋平²⁾、長谷川剛³⁾、山名一寿⁴⁾、中川由紀¹⁾、西山勉¹⁾、富田善彦⁴⁾

インターフェロン α 、スニチニブ、アキシチニブ、ニボルマブ治療後に低用量アキシチニブ治療(2 mg/day)に奏功した転移性腎細胞癌症例を経験したので報告する。本症例はアキシチニブ 10mg/dayで開始したが、有害事象のため4mg/dayまで減量した。転移部位は縮小したが、有害事象のためにアキシチニブ投与を断念した。ニボルマブ治療前にアキシチニブ投与量を2 mg/dayに減量して使用していれば、転移巣の縮小維持ができたものと思われる。

3. 『当院における進行性尿路上皮癌に対するペムブロリズマブの初期使用経験』

長岡赤十字病院 泌尿器科
山崎裕幸、鈴木一也、米山健志

2017年12月に「がん化学療法後に増悪した根治切除不可能な尿路上皮癌」に対し、ペムブロリズマブが追加承認された。当院では現在までに2例に同薬剤の投与を行った。
症例1は44歳女性、右腎盂癌、左副腎、リンパ節、肺転移症例。GC、GT、GEM+CBDCA後の4th lineで投与。症例2は58歳男性、左腎盂癌、骨、肺転移症例。GC、GEM後の3rd lineで投与。
上記2例につき、ペムブロリズマブの初期使用経験を報告する。

4. 当院におけるPNLの治療成績

新潟県立新発田病院 泌尿器科
宮島憲生 小松集一 波田野彰彦

当院で行った腎結石に対するPNLの治療成績について検討を行った。対象は2009年4月から2018年10月までに手術を行った37症例。手術体位は腹臥位、碎石装置はHo:YAGレーザー、リソクラストを使用した。性別は男性20名、女性13名、年齢の中央値は64歳、サンゴ状腎結石は9例であった。手術時間の中央値は105分、Hb低下量は中央値1.15g/dlであった。重篤な合併症として腎破裂、腎内部遺物残存を認めた。Stone free rateは手術3か月のKUBで評価し54%であった。当院の特徴として症候性腎結石の比率が高かった。

5. 県内における「泌尿器細胞診報告様式 2015」の運用状況

新潟県立がんセンター新潟病院病理診断科
川崎 隆

3 年前に制定された「泌尿器細胞診報告様式 2015」は、国内で初めての統一された尿細胞診の報告様式である。5 段階のカテゴリー分類(不適正、陰性、異型細胞、悪性疑い、悪性)に推定組織型を記載し、コメントを述べる形式である。また、5 つの細胞所見(核腫大、核濃染、核形不整、N/C 比大、核偏在)を重視し、高異型度尿路上皮癌の診断を優先している。9 月に泌尿器科医が勤務する施設に行ったアンケート(回答率 89.7%)では、65.7%がこの報告様式を知っており、28.6%で使用していた。今後報告様式 2015 が普及するに従い診断精度に変化が現れると考えられる。

6. TUL を試みたが碎石に至らなかった 84 例の検討

新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター 泌尿器科
木村元彦 志村尚宣

2010 年 2 月から 2018 年 4 月の間に TUL を予定して手術を行った 1069 例から、治療結石に対する治療歴のある 224 例を除き、845 例を検討対象とした。このうち 84 例 (9.9%) が碎石不能(TUL トライアル)であり、ラーニングカーブを認めず、その原因の多くは半硬性鏡が通過困難な尿管狭窄であった。多重ロジスティック解析により、トライアルとなる独立した危険因子は、結石既往あり・緊急手術・結石長径小・結石部位(腎>U1>U2, U3)・水腎症中-高度であった。84 例のうち 78 例で引き続き尿管ステント留置を行い得た。65 例は 2-4 週後に TUL で治療した。

7. 2018 年診療報酬改定にあたって(泌尿器科部門)
診療報酬の手引き ー保険請求で損をしないためにー

新潟医療生活協同組合 木戸病院 泌尿器科
日本泌尿器科学会 保険委員会 保険委員
北村康男

従来地方会会員に対し、＜保険診療マニュアル：泌尿器科編＞を配布した時期があったが、最近忘れられていた。今回 2018 年の診療報酬改定に当たり、新しくマニュアルを作成・配布するにあたり、若干の説明を加える。

新潟泌尿器科同窓会総会

16：40～17：10

[会場 5階 波光の間]

《休憩 17：10～17：30》

17：30 より研究会が予定されています。

新潟地方会・同窓会合同懇親会を研究会終了後5階「常盤の間」で行います。

Niigata Urology Seminar 2018

日時：2018年12月8日(土)17:30～18:40

会場：新潟グランドホテル 5階 『波光の間』

住所：新潟市中央区上大川前通3ノ町 TEL 025-228-6111

座長

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学・分子腫瘍学

教授 富田 善彦 先生

◆General Lecture 17:30～17:40

『前立腺がん患者における
エンザルタミドによる全身倦怠感軽減についての検討』

演者

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学 助教

丸山 亮 先生

◆Expert Lecture 17:40～18:40

『ひととはがんはどう向き合うか？』

演者

公益財団法人 日本対がん協会 会長

国立がんセンター名誉総長

垣添 忠生 先生

主催：アステラス製薬株式会社